

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日平成21年6月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103524
法人名	医療法人 起生会
事業所名	グループホーム ハートフル林
所在地	鹿児島市西田三丁目15-5 (電話) 099-257-6977

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54-15
訪問調査日	平成21年6月28日

## 【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 6 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り 4 階建ての 2, 4階部分
------	-------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~39,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	林内科胃腸科病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅近くの利便性の高い地域に建ち、2階と4階がグループホーム、3階に有料老人ホームを有する施設である。共有空間や居室は広くゆったりとして、4階のホールや菜園からは駅や市街地が見渡せる。また、法人医療機関が近くにあること、認知症専門医の定期的な往診があることなど健康面での支援が充実し、本人や家族の大きな安心となっている。設立より職員の異動は少なく、利用者との信頼関係が築かれ、法人内研修は職員全員が受講できるように配慮されている。また、緊急時のマニュアルを作成し、終末期にも対応できるように職員間の情報の共有を図っている。前回の外部評価後に地域へ働きかけ、運営推進会議をより有意義なものにしたり、管理栄養士との連携を図るなどできるところから取り組み、今後も改善点を見つけ質の向上に努めようという積極的な姿勢が見えるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングでも伝達し、誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。運営推進会議を利用した地域との連携やホーム便りの発行、管理栄養士への相談など課題の改善への取り組みを着実に実行している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で分担して担当し、ミーティングで話し合いまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加がある。議事録より、事業所行事などの報告のみではなく、出席者の意見や助言が毎回あり、有意義な会になっている。地域包括支援センター職員や民生委員は昨年外部評価以降に働きかけて参加してもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置するとともに、利用開始時に苦情相談窓口について書類を見ながら家族に説明している。年2回の家族会や運営推進会議でも意見を出せる場を作り、家族からの質問や意見が出ている。また、職員が苦情などを把握した時には管理者や他の職員と共有し、解決を図り、家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、運動会や敬老の行事に参加している。利用者が高齢化し外出が困難になる中、少人数ごとに交代で公園や買い物に出かけたり、地域のボランティアを招いたり、職員による回覧板のやり取りや民生委員との情報交換を図るなど地域との交流に努めている。昨年の外部評価で指摘を受けた項目であるが、改善がみられている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に作成された理念があり職員全員で取り組んでいるが、地域密着型サービスとしての内容が明確に盛り込まれているとはいいいがたい。	○	年内に地域密着型としての役割を目指した理念を職員全員で検討したい意向である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で理念を意識して介護に取り組んでいる。また、作成された理念は職員や来訪者の目につくように玄関やホールに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、運動会や敬老の行事に参加している。利用者が高齢化し外出が困難になる中、少人数ごとに交代で公園や買い物に出かけたり、地域のボランティアを招いたり、職員による回覧板のやり取りや民生委員との情報交換を図るなど地域との交流に努めている。昨年の外部評価で指摘を受けた項目であるが、改善がみられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングでも伝達し、誰もが閲覧できるように玄関に設置されている。今回の自己評価は職員全員で分担して担当し、ミーティングで話し合いまとめたもので、改善に向けての具体的な取り組みも自己評価票に明示し、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加がある。議事録より、事業所行事などの報告のみではなく、出席者の意見や助言が毎回あり、有意義な会になっている。昨年の外部評価を活かした改善がみられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとも連携し、市担当窓口へも少なくとも月に1回は出向き、相談や情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。また、毎年1回は介護相談員を受け入れ、利用者の話を聞いてもらうなど利用者が外部に声を表せる機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや利用者の暮らしぶりを記載したお知らせを郵送するなど、昨年の外部評価を受け取り組みを始めた。金銭管理については面会時に説明し、金銭出納簿に確認の押印をもらっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、利用開始時に苦情相談窓口について書類を見ながら家族に説明している。年2回の家族会や運営推進会議でも意見を出せる場を作り、家族からの質問や意見が出ている。また、職員が苦情などを把握した時には管理者や他の職員と共有し、解決を図り、家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、開設当初より勤務する職員の割合が多く、異動や離職は少ない。職員が異動する際には引き継ぎの期間に余裕を持ち、利用者への影響を少なくするように努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については積極的に職員に紹介し、受講費を法人が負担するなどの配慮を行っている。毎月2回行われる法人の研修は同じものが3回行われ、非常勤職員も全員が受講しサービスの質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入して研修会での交流があるが、他のグループホーム職員や利用者との交流する機会が十分確保できているとはいえない。	○	管理者だけでなく職員も地域の同業者と交流する機会を持ち、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用者が入居する前に病院などに出向いて、顔馴染みの関係を作ったり、看護師長などからのサマリーをもとに、スムーズにホームに馴染めるように配慮している。また、入居後ホームの雰囲気に慣れやすいように、家族の協力を求めながら訪問を促したり、頻りに声をかけを行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から花の名前や昔の出来事などを聞いたり、家事を一緒にする機会を設けて支えあう関係を築いている。また、一緒に季節の行事を調べ掲示するなど昔のことを学ぶ場面づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族からどのように暮らしたいかを聞き、フェイスシートやアセスメント表などに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員や職員が担当者会議を開き、本人・家族の希望や意向をもとに話し合いながら計画を作成している。主治医の意見は受診の際介護支援専門員などが確かめている。職員もすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで変化の兆しがないかなどを話し合っているが、利用者一人ひとりの介護計画に対する評価は3ヶ月ごとに行い記録されている。状況に変化があり介護計画の見直しが必要な時には、期間の途中でも担当者会議を開いて計画の見直しを行っている。	○	利用者全員のモニタリングを毎月行い、計画見直しの必要性の有無などを確認し経過記録などに記載することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や家族の宿泊、利用者の早期退院に向けての支援など臨機応変に対応している。また、訪問看護師と連携を図ることで医師との情報交換も行いやすくなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしている。専門医の定期的な往診受け入れや医療機関への通院介助などで、利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。「重度化した場合の対応に係る指針」が作成され、入居時に説明し同意を得、利用者の急変時の対応について「緊急時のマニュアル」が作成され、常に職員間で共有を図っている。入居後は状況に応じて本人や家族、かかりつけ医と相談し方針を決め、職員間の共有も図っている。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護方針を掲示するとともに、研修会やミーティングを利用し職員の意識の向上を図っている。また、記録等は事務室などに保管し情報の漏えい防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	引き継ぎで夜間の様子を聞いたうえで、体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、調理方法を相談したり、調理を一緒にしたりして食への興味を持ってもらっている。利用者と職員がともに食卓を囲み会話をしながらの食事風景がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2日の入浴日が決まっているが、他のユニットでの入浴も可能であり、臨機応変に対応している。入浴を嫌われる方には個別に対応し、できるだけ声をかけ入浴を楽しめるように支援している。しかし、浴場の踏み台がやや不安定だったり、浴室のドアの内外の床の段差が大きいなど安全性の再検討の必要性を感じる。	○	利用者の身体機能の変化に合わせ、入浴が利用者にとってスムーズで安全かつ楽しいものとなるように安全性の見直しが望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や洗濯、そうじ、花の水かけ、買い物、創作活動、利用者相互の様子確認など一人ひとりの生活歴や力を見つけ出し支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞きながら、買い物、ドライブ、近くの公園への散歩に出かけたり、家族の協力をもらい墓参りや散歩に出かけている。車いすを利用する方でも外出の機会を設け、気分転換や五感を刺激するように努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、毎年定期的に避難訓練を行い、地域に災害時の協力を呼び掛けている。しかし、夜間を想定した実践的な訓練はまだ実施されず、食料の備蓄も検討課題である。	○	夜間を想定したり、地区住民の参加や協力を得ながらのより実践的な避難訓練の実施と、食品や飲料水などの備蓄についての取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は個人別の記録に毎日全員記録しケアに活かされている。管理栄養士の指導を受けながら、刻み、軟食も取り入れているが、ほかの利用者の食事と外見上はあまり差がない食事で生活の質を保っている。嚥下体操や口腔ケアも毎回行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に作成した季節の行事を書いた作品を掲示したり、花を飾ったりして季節感を取り入れ、テーブルやソファでは利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。4階外の菜園はいろいろな野菜が植えられ、日当たりや風通しがよく、ゆったりとくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はかなり広く、テレビ・冷蔵庫・テーブルなど個人のものを持ち込まれたり、写真やお便りなどが飾られ居心地のよい空間となっている。		